

# 配分電盤類 取扱説明書

## 安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

- ご使用前に、この取扱説明書「安全上のご注意」並びに各機器に附属されている取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使い下さい。
- お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してください。

### 【絵表示について】

- この取扱説明書及び製品への表示では、製品を正しく施工、お使いいただき、施工される方や使用される方への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読み下さい。



### 危険

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



### 注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 【絵表示の例】



◇記号は危険を及ぼす恐れがあることを告げるものです。  
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。  
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。  
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

## ⚠ 危険

### 施工時の注意

- 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。



- 内線規程等の法規を遵守して、正しい工事を行ってください。



- 正しい配線、結線工事をしてください。誤結線があると火災、感電、故障の原因になります。



- 配線は、適合した電線、圧着端子を使い、確実に締め付けてください。締め付けがゆるいと、火災の原因になります。



- 接地端子は必ず、確実に接地してください。接地しないと、感電、故障の原因になります。



### 使用時の注意

- ドアは必ず施錠し、鍵は関係者以外は持ち出せぬよう管理してください。一般の人がドアを開けて内部に触れると、感電の原因になります。



- ドアを開けて内部の点検、操作は電気工事業者または、専門知識を有する方以外は行わないでください。内部には強電部があり、触ると感電の原因になります。



共-2

TTS-014/共 02

## ⚠ 注意

### 施工時の注意

- 箱体に通線穴を加工して開ける場合は、内部の電気部品に切粉やゴミがかからないよう養生等の処置をしてください。電気部品に切粉やゴミが付着した状態で通電すると、火災、感電、故障の原因になります。



- 水抜き穴は塞がないでください。何らかの原因で内部に水が浸入した場合、漏電、感電、故障の原因になります。



- 改造の必要がある場合は、必ず当社にご相談ください。無断で改造等をしたことにより生じた事故については一切責任を負えません。



- 機器の設定が間違っていると、動作不良や故障の原因になります。関連要素を確認の上、正しく設定してください。



- 施工時に取り外した端子カバー、保護カバー等は必ず元の位置に戻してください。取り外したままにしておくと、点検等で内部を開けたとき、感電の原因になります。



### 保守する上での注意

- ヒューズが溶断した場合は、必ず同容量、同形式のものと交換してください。容量、形式が違うと、火災、故障の原因になります。



- 定期的に変換する必要がある部品は、○○です。○○年に一回は、新品と交換してください。



共-3

TTS-014/共 02

## キュービクルの取扱説明書

### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 遠方操作信号や連動回路により、突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業してください。
3. 導電部の接続ネジは、表1の適正締付トルクで定期的に増締めを行ってください。
4. ドアを開いての点検などは、必ず開いたドアを固定してから行ってください。突風等により、ドアに押されて、感電する危険があります。
5. 断路器(DS)を操作する場合は、必ず遮断器(VCB)をOFFにしてから行ってください。
6. 感電の恐れがあります。通電中は、キュービクルの内部に入らないでください。
7. 漏電遮断器が設置されている場合は、保守点検時にテストボタンによる動作確認をしてください。
8. 壁内充電部に近づいたり、触れたりすると感電します。ドアは必ず施錠し、鍵は関係者以外が持ち出せぬように管理してください。

### ⚠ 注意

9. 保護継電器等は、施工完了後正しく整定してください。
10. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。改造の必要がある場合は、必ず請負(施工)業者にご相談下さい。
11. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。また、規定された十分な保守点検スペースを確保してください。
12. 通風口にフィルターが付いている場合は、定期的に点検・清掃を行ってください。
13. 試験モードでONしたまま現場を離れないでください。インターロック等が強制解除されており危険です。試験完了後は、必ず所定のモードに正しく設定してください。
14. 事故防止および機能維持のため、保守点検は設置環境、使用状態に応じて、定期的を実施してください。
15. 感電、短絡事故の恐れがあります。保守点検時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
16. 不具合が発生した場合は、速やかに電気主任技術者、または専門業者に連絡してください。
17. ヒューズが溶断した場合は、機器損傷の恐れがありますので、その原因を取り除いてから、必ず同容量、同形式のものと交換してください。
18. 使用機器の中には、有害物質が含まれている場合もありますので、十分注意して処理してください。
19. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒にして大切に管理保存してください。
20. 定期的な交換する必要がある機器、例えばバッテリー等は、適宜交換してください。

## キュービクルの施工説明書

### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 関連法規を遵守して、正しい工事を行ってください。
3. 導電部の接続ネジが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。配線工事完了時、全ての導電部のネジを表1の適正締付トルクで増締めしてください。
4. 正しい配線、結線工事を行ってください。誤結線があると火災、感電、故障の原因になります。
5. 遠方操作信号や連動回路により、突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業してください。
6. 配線は、適合した電線・圧着端子を使い、導電部の接続ネジは表1の適正締付トルクで確実に締め付けてください。
7. 接地線の接続不良は、感電、事故の恐れがあります。接地線は、接地端子に確実に接続してください。
8. 感電の恐れがあります。通電中は、キュービクルの内部に入らないでください。

### ⚠ 注意

9. 高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃等の環境は避けて設置してください。
10. 機器の設定が間違っていると、動作不良や故障の原因になります。関連要素を確認の上、正しく設定してください。
11. 保護継電器等は、施工完了後正しく整定してください。
12. 箱体、チャンネルベースは取付面の水平を確認して設置してください。固定は図面に指定されている箇所全てを正しい太さのボルトにて強固に行ってください。
13. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。また、認定キュービクルの改造を無断で行うことは、法律で禁じられています。
14. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。また、規定された十分な保守点検スペースを確保してください。
15. 通風口にフィルタが付いている場合は、施工完了時に点検・清掃を行ってください。
16. 通線穴加工等の施工作業時に、内部機器に切粉・水・埃・ゴミ等がかかると、感電、故障の原因になります。養生等の処置をしてください。
17. 感電、短絡事故の恐れがあります。施工時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
18. 不具合が発生した場合は、速やかに当社に連絡してください。
19. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に施工主様にお渡しください。

## 制御盤・監視盤・警報盤の取扱説明書

### 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 外部センサーや系統間の運動回路により、突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業してください。
3. 導電部の接続ネジは、表1の適正締付トルクで定期的に増締めを行ってください。
4. ドアを開いての点検・操作は、感電の恐れがあります。電気工事業者又は専門知識を有する方以外は行わないでください。
5. 漏電遮断器が設置されている場合は、保守点検時にテストボタンによる動作確認をしてください。
6. 壁内充電部に触れると感電します。鍵付のドアは必ず施錠し、鍵は関係者以外が持ち出せぬように管理してください。

### 注意

7. 設定を要する機器は、施工完了後、使用目的に応じて実負荷電流等に合わせて適正に設定してください。
  8. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。改造の必要がある場合は、必ず請負(施工)業者にご相談下さい。
  9. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。また、安全のために十分な保守点検スペースを確保してください。
  10. 通風口にフィルターが付いている場合は、定期的に点検・清掃を行ってください。
  11. 設備を手動や試験で運転する場合は、保護機能や運動が働かない場合もあります。設備の状態を確認しながら操作してください。  
例) 給排水ポンプを手動で運転する場合は、水位を確認しながら行ってください。
  12. 自動センサー・インターロック等が強制解除されており危険です。試験モードでONしたまま現場を離れないでください。試験完了後は、必ず所定のモードに正しく設定してください。
  13. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
  14. 事故防止および機能維持のため、保守点検は設置環境、使用状態に応じて、定期的の実施してください。
  15. 感電、短絡事故の恐れがあります。保守点検時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
  16. 遮断器が動作した場合には、漏電・負荷機器損傷の恐れがあります。必ずその原因を取り除いてから再投入してください。  
●遮断器が動作した場合には、把手(とつて)を一旦OFFにしてリセットしてからON側にすると再投入することができます。
- 
17. ヒューズが溶断した場合は、機器損傷の恐れがありますので、その原因を取り除いてから、必ず同容量、同形式のものと交換してください。
  18. 不具合が発生した場合は、請負(施工)業者又は専門知識を有する方に相談の上、対処してください。
  19. 使用機器の中には、有害物質が含まれている場合もあります。十分注意して処理してください。
  20. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒にして大切に管理保存してください。
  21. 定期的な交換する必要がある機器、例えばバッテリー等は、適宜交換してください。

## 制御盤・監視盤・警報盤の施工説明書

### 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 内線規程等の法規を遵守して、正しい工事を行ってください。
3. 導電部の接続ネジが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。配線工事完了時、全ての導電部のネジを表1の適正締付けトルクで増締めしてください。
4. 正しい配線、結線工事をしてください。誤結線があると火災、感電、故障の原因になります。
5. 外部センサーや系統間の運動回路により、突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業してください。
6. 配線は、適合した電線・圧着端子を使い、導電部の接続ネジは表1の適正締付トルクで確実に締め付けてください。
7. 接地線の接続不良は、感電、事故の恐れがあります。接地線は、接地端子に確実に接続してください。

### 注意

8. 直射日光、高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃等の環境は避けて設置してください。
9. 機器の設定が間違っていると、動作不良や故障の原因になります。関連要素を確認の上、正しく設定してください。
10. 防雨形、防滴形の水抜き穴は塞がないでください。何らかの原因で壁内に水が浸入した場合、漏電や故障の原因になります。
11. 設定を要する機器は、施工完了後、使用目的に応じて実負荷電流等に合わせて適正に設定してください。
12. 箱体、チャンネルベースは取付面の水平を確認して設置してください。固定は図面に指定されている箇所全てを正しい太さのボルトにて堅牢に行ってください。必要に応じて転倒防止等の処置を行ってください。
13. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
14. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。また、安全のために十分な保守点検スペースを確保してください。
15. 通風口にフィルターが付いている場合は、施工完了時に点検・清掃を行ってください。
16. 通線穴加工等の施工作業時に、内部機器に切粉・水・埃・ゴミ等がかかると、感電、故障の原因になります。養生等の処置をしてください。
17. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
18. 感電、短絡事故の恐れがあります。施工時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
19. 不具合が発生した場合は、速やかに当社に連絡してください。
20. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に施工主様にお渡しください。

## 分電盤の取扱説明書

### 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業してください。
3. 導電部の接続ネジは、表1の適正締付トルクで定期的増締めを行ってください。
4. 感電の恐れがあります。機器の開閉操作は、保護板をしめた状態で行ってください。保護板を開いて行う点検・操作は、電気工事業者又は専門知識を有する方以外に行わないでください。
5. 漏電遮断器が設置されている場合は、保守点検時にテストボタンによる動作確認をしてください。
6. 盤内充電部に触れると感電します。ドアは必ず施錠し、鍵は関係者以外が持ち出せぬように管理してください。

### 注意

7. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。改造の必要がある場合は、必ず請負(施工)業者にご相談ください。なお、耐熱形配電盤・分電盤の改造を無断で行うことは法律で禁じられています。
8. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。また、安全のために十分な保守点検スペースを確保してください。
9. 通風口にフィルターが付いている場合は、定期的に点検・清掃を行ってください。
10. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
11. 事故防止および機能維持のため、保守点検は設置環境、使用状態に応じて、定期的を実施してください。
12. 感電、短絡事故の恐れがあります。保守点検時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
13. 遮断器が動作した場合には、漏電・負荷機器損傷の恐れがあります。必ずその原因を取り除いてから再投入してください。

●遮断器が動作した場合には、把手(とって)を一旦OFFにしてリセットしてからON側にすると再投入することができます。



14. ヒューズが溶断した場合は、機器損傷の恐れがありますので、その原因を取り除いてから、必ず同容量、同形式のものと交換してください。
15. 不具合が発生した場合は、請負(施工)業者又は専門知識を有する方に相談の上、対応してください。
16. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒にして大切に管理保存してください。
17. 定期的な交換する必要がある機器、例えばバッテリー等は、適宜交換してください。

## 分電盤の施工説明書

### 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 火災や耐熱性能の低下の恐れがあります。耐熱配電盤・分電盤は内線規程等の法規を遵守すると共に、専用の施工説明書に従い正しい工事を行ってください。
3. 導電部の接続ネジが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。配線工事完了時に、全ての導電部のネジを表1の適正締付トルクで増締めしてください。
4. 正しい配線、結線工事を行ってください。誤結線があると火災、感電、故障の原因になります。
5. 外部信号や連動回路により突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業してください。
6. 配線は、適合した電線・圧着端子を使い、導電部の接続ネジは表1の適正締付トルクで確実に締め付けてください。
7. 接地線の接続不良は、感電、事故の恐れがあります。接地線は、接地端子に確実に接続してください。

### 注意

8. 直射日光、高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃等の環境は避けて設置してください。電源・負荷の配線は、相・線式・電圧・容量を確認の上、施工してください。
9. 防雨形、防滴形の水抜き穴は塞がないでください。何らかの原因で盤内に水が浸入した場合、漏電や故障の原因になります。
10. タイマの整定などが間違っていると、機器の動作不良や照明の不点灯などの原因になります。関連要素を確認の上、正しく整定してください。
11. 箱体、チャンネルベースは取付面の水平・垂直を確認して設置してください。固定は図面に指定されている箇所全てを正しい太さのボルトにて堅牢に行ってください。必要に応じて転倒防止等の処置をしてください。
12. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。耐熱形配電盤・分電盤の改造を無断で行うことは法律で禁じられています。
13. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。また、安全のために十分な保守点検スペースを確保してください。
14. 通線穴加工等の施工作業時に、内部機器に切粉・水・埃・ゴミ等がかかると、感電、故障の原因になります。養生等の処置をしてください。
15. 屋外壁で水の浸入の恐れのある貫通部には、漏電や故障の防止のため防水処理を行ってください。
16. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
17. 感電、短絡事故の恐れがあります。施工時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
18. 不具合が発生した場合は、速やかに当社に連絡してください。
19. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に施工主様にお渡しください。

## 分電盤(ドアなし)の取扱説明書

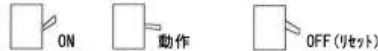
### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。  
電源や信号をOFF状態にして作業してください。
3. 導電部の接続ネジは、表1の適正締付トルクで定期的増締めを行ってください。
4. 感電の恐れがあります。機器の開閉操作は、保護板をしめた状態で行ってください。  
保護板を開いて行う点検・操作は、電気工事業者又は専門知識を有する方以外は行わないでください。
5. 漏電遮断器が設置されている場合は、保守点検時にテストボタンによる動作確認をしてください。

### ⚠ 注意

6. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。改造の必要がある場合は、必ず請負(施工)業者にご相談下さい。
7. 保守点検のため、周囲のスペースを十分確保してください。
8. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
9. 事故防止および機能維持のため、保守点検は設置環境、使用状態に応じて、定期的に実施してください。
10. 感電、短絡事故の恐れがあります。保守点検時に取り外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
11. 遮断器が動作した場合には、漏電・負荷機器損傷の恐れがあります。必ずその原因を取り除いてから再投入してください。

●遮断器が動作した場合には、把手(とって)を一旦OFFにしてリセットしてからON側に戻すと再投入することができます。



12. ヒューズが溶断した場合は、機器損傷の恐れがありますので、その原因を取り除いてから、必ず同容量、同形式のものと交換してください。
13. 不具合が発生した場合は、請負(施工)業者または専門知識を有する方に相談の上、対処してください。
14. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に大切に管理保存してください。
15. 定期的に交換する必要がある機器、例えばバッテリー等は、適宜交換してください。

Bn-1

TTS-014/Bn00

## 分電盤(ドアなし)の施工説明書

### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 導電部の接続ネジが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。配線工完了時に、全ての導電部のネジを表1の適正締付トルクで増締めしてください。
3. 正しい配線、結線工事を行ってください。誤結線があると火災、感電、故障の原因になります。
4. 外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。  
電源や信号をOFF状態にして作業してください。
5. 配線は、適合した電線・圧着端子を使い、導電部の接続ネジは表1の適正締付トルクで確実に締め付けてください。
6. 接地線の接続不良は、感電、事故の恐れがあります。接地線は、接地端子に確実に接続してください。

### ⚠ 注意

7. 直射日光、高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃等の環境は避けて設置してください。  
電源・負荷の配線は、相・線式・電圧・容量を確認の上、施工してください。
8. タイマの整定などが間違っていると、機器の動作不良や照明の不点灯などの原因になります。関連要素を確認の上、正しく整定してください。
9. 箱体、チャンネルベースは取付面の水平・垂直を確認して設置してください。固定は図面に指定されている箇所全てを正しい太さのボルトにて堅牢に行ってください。必要に応じて転倒防止等の処置をしてください。
10. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
11. 保守点検のため、周囲のスペースを十分確保してください。
12. 通線穴加工等の施工作業時に、内部機器に切粉・水・埃・ゴミ等がかかると、感電、故障の原因になります。養生等の処置をしてください。
13. 屋外壁で水の浸入の恐れのある貫通部には、漏電や故障の防止のため防水処理を行ってください。
14. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
15. 感電、短絡事故の恐れがあります。施工時に取り外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
16. 不具合が発生した場合は、速やかに当社に連絡してください。
17. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に施工主様にお渡しください。

Bn-2

TTS-014/Be00

## 分電盤(ドアなし)の取扱説明書

### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。  
電源や信号をOFF状態にして作業してください。
3. 導電部の接続ネジは、表1の適正締付トルクで定期的に増締めを行ってください。
4. 感電の恐れがあります。機器の開閉操作は、保護板をしめた状態で行ってください。  
保護板を開いて行う点検・操作は、電気工事業者又は専門知識を有する方以外は行わないでください。
5. 漏電遮断器が設置されている場合は、保守点検時にテストボタンによる動作確認をしてください。

### ⚠ 注意

6. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。改造の必要がある場合は、必ず請負(施工)業者にご相談下さい。
7. 保守点検のため、周囲のスペースを十分確保してください。
8. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
9. 事故防止および機能維持のため、保守点検は設置環境、使用状態に応じて、定期的を実施してください。
10. 感電、短絡事故の恐れがあります。保守点検時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
11. 遮断器が動作した場合には、漏電・負荷機器損傷の恐れがあります。必ずその原因を取り除いてから再投入してください。

●遮断器が動作した場合には、把手(とって)を一旦OFFにしてリセットしてからON側にすると再投入することができます。



12. ヒューズが溶断した場合は、機器損傷の恐れがありますので、その原因を取り除いてから、必ず同容量、同形式のものと交換してください。
13. 不具合が発生した場合は、請負(施工)業者または専門知識を有する方に相談の上、対処してください。
14. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に大切に管理保存してください。
15. 定期的に交換する必要がある機器、例えばバッテリー等は、適宜交換してください。

## 分電盤(ドアなし)の施工説明書

### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 導電部の接続ネジが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。配線工事完了時に、全ての導電部のネジを表1の適正締付トルクで増締めしてください。
3. 正しい配線、結線工事を行ってください。誤結線があると火災、感電、故障の原因になります。
4. 外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。  
電源や信号をOFF状態にして作業してください。
5. 配線は、適合した電線・圧着端子を使い、導電部の接続ネジは表1の適正締付トルクで確実に締め付けてください。
6. 接地線の接続不良は、感電、事故の恐れがあります。接地線は、接地端子に確実に接続してください。

### ⚠ 注意

7. 直射日光、高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃等の環境は避けて設置してください。  
電源・負荷の配線は、相・線式・電圧・容量を確認の上、施工してください。
8. タイマの整定などが間違っていると、機器の動作不良や照明の不点灯などの原因になります。関連要素を確認の上、正しく整定してください。
9. 箱体、チャンネルベースは取付面の水平・垂直を確認して設置してください。固定は図面に指定されている箇所全てを正しい太さのボルトにて堅牢に行ってください。必要に応じて転倒防止等の処置をしてください。
10. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
11. 保守点検のため、周囲のスペースを十分確保してください。
12. 通線穴加工等の施工作業時に、内部機器に切粉・水・埃・ゴミ等がかかると、感電、故障の原因になります。養生等の処置をしてください。
13. 屋外壁で水の浸入の恐れのある貫通部には、漏電や故障の防止のため防水処理を行ってください。
14. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
15. 感電、短絡事故の恐れがあります。施工時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
16. 不具合が発生した場合は、速やかに当社に連絡してください。
17. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に施工主様にお渡しください。

## 開閉器盤の取扱説明書

### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 導電部の接続ネジは、表1の適正締付トルクで定期的に増締めを行ってください。
3. 感電の恐れがあります。機器の開閉操作は、充電部に触れないように十分注意して行ってください。保護板がある場合は、保護板を閉めた状態で行ってください。保護板を開いて行う点検・操作は、電気工事業者又は専門知識を有する方以外は行わないでください。
4. 漏電遮断器が設置されている場合は、保守点検時にテストボタンによる動作確認をしてください。
5. 盤内充電部に触れると感電します。ドアは必ず施錠し、鍵は関係者以外が持ち出せぬように管理してください。

### ⚠ 注意

6. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。改造の必要がある場合は、必ず請負(施工)業者にご相談下さい。
  7. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。  
また、安全のために十分な保守点検スペースを確保してください。
  8. 通風口にフィルターが付いている場合は、定期的に点検・清掃を行ってください。
  9. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
  10. 事故防止および機能維持のため、保守点検は設置環境、使用状態に応じて、定期的の実施してください。
  11. 感電、短絡事故の恐れがあります。保守点検時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
  12. 遮断器が動作した場合には、漏電・負荷機器損傷の恐れがあります。必ずその原因を取り除いてから再投入してください。  
●遮断器が動作した場合には、把手(とって)を一旦OFFにしてリセットしてからON側にする后再投入することができます。
- 
13. ヒューズが熔断した場合は、機器損傷の恐れがありますので、その原因を取り除いてから、必ず同容量、同形式のものと交換してください。
  14. 不具合が発生した場合は、請負(施工)業者又は専門知識を有する方に相談の上、対処してください。
  15. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒にして大切に管理保存してください。

## 開閉器盤の施工説明書

### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 導電部の接続ネジが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。配線工事完了時に、全ての導電部のネジを表1の適正締付トルクで増締めしてください。
3. 正しい配線、結線工事を行ってください。誤結線があると火災、感電、故障の原因になります。
4. 外部信号や連動回路により、突発動作することがあります。  
電源や信号をOFF状態にして作業してください。
5. 配線は、適合した電線・圧着端子を使い、導電部の接続ネジは表1の適正締付トルクで確実に締め付けてください。
6. 接地線の接続不良は、感電、事故の恐れがあります。接地線は、接地端子に確実に接続してください。

### ⚠ 注意

7. 直射日光、高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃等の環境は避けて設置してください。  
電源・負荷の配線は、相・線式・電圧・容量を確認の上、施工してください。
8. 防雨形、防滴形の水抜き穴は塞がないでください。  
何らかの原因で盤内に水が侵入した場合、漏電や故障の原因になります。
9. タイマの整定などが間違っていると、機器の動作不良や照明の不点灯などの原因になります。関連要素を確認の上、正しく整定してください。
10. 箱体、チャンネルベースは取付面の水平・垂直を確認して設置してください。固定は図面に指定されている箇所全てを正しい太さのボルトにて堅牢に行ってください。必要に応じて転倒防止等の処置をしてください。
11. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
12. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。  
また、安全のために十分な保守点検スペースを確保してください。
13. 通線穴加工等の施工作業時に、内部機器に切粉・水・埃・ゴミ等がかかると、感電、故障の原因になります。養生等の処置をしてください。
14. 屋外壁で水の浸入の恐れのある貫通部には、漏電や故障の防止のため防水処理を行ってください。
15. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
16. 感電、短絡事故の恐れがあります。施工時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
17. 不具合が発生した場合は、速やかに当社に連絡してください。
18. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に施工様にお渡ししてください。



## 開閉器盤の施工説明書

### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 導電部の接続ネジが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。配線工事完了時に、全ての導電部のネジを表1の適正締付トルクで増締めしてください。
3. 正しい配線、結線工事を行ってください。誤結線があると火災、感電、故障の原因になります。
4. 外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。  
電源や信号をOFF状態にして作業してください。
5. 配線は、適合した電線・圧着端子を使い、導電部の接続ネジは表1の適正締付トルクで確実に締め付けてください。
6. 接地線の接続不良は、感電、事故の恐れがあります。接地線は、接地端子に確実に接続してください。

### ⚠ 注意

7. 直射日光、高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃等の環境は避けて設置してください。電源・負荷の配線は、相・線式・電圧・容量を確認の上、施工してください。
8. 防雨形、防滴形の水抜き穴は塞がないでください。  
何らかの原因で盤内に水が侵入した場合、漏電や故障の原因になります。
9. タイマの整定などが間違っていると、機器の動作不良や照明の不点灯などの原因になります。関連要素を確認の上、正しく整定してください。
10. 箱体、チャンネルベースは取付面の水平・垂直を確認して設置してください。固定は図面に指定されている箇所全てを正しい太さのボルトにて堅牢に行ってください。必要に応じて転倒防止等の処置をしてください。
11. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
12. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。  
また、安全のために十分な保守点検スペースを確保してください。
13. 通線穴加工等の施工作業時に、内部機器に切粉・水・埃・ゴミ等がかかると、感電、故障の原因になります。養生等の処置をしてください。
14. 屋外壁で水の浸入の恐れのある貫通部には、漏電や故障の防止のため防水処理を行ってください。
15. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
16. 感電、短絡事故の恐れがあります。施工時に取り外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
17. 不具合が発生した場合は、速やかに当社に連絡してください。
18. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に施工主様にお渡しください。

## 開閉器盤の施工説明書

### ⚠ 危険

1. 有資格者以外の電気工事は、法律で禁じられています。
2. 導電部の接続ネジが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。配線工事完了時に、全ての導電部のネジを表1の適正締付トルクで増締めしてください。
3. 正しい配線、結線工事を行ってください。誤結線があると火災、感電、故障の原因になります。
4. 外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。  
電源や信号をOFF状態にして作業してください。
5. 配線は、適合した電線・圧着端子を使い、導電部の接続ネジは表1の適正締付トルクで確実に締め付けてください。
6. 接地線の接続不良は、感電、事故の恐れがあります。接地線は、接地端子に確実に接続してください。

### ⚠ 注意

7. 直射日光、高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃等の環境は避けて設置してください。電源・負荷の配線は、相・線式・電圧・容量を確認の上、施工してください。
8. 防雨形、防滴形の水抜き穴は塞がないでください。  
何らかの原因で盤内に水が侵入した場合、漏電や故障の原因になります。
9. タイマの整定などが間違っていると、機器の動作不良や照明の不点灯などの原因になります。関連要素を確認の上、正しく整定してください。
10. 箱体、チャンネルベースは取付面の水平・垂直を確認して設置してください。固定は図面に指定されている箇所全てを正しい太さのボルトにて堅牢に行ってください。必要に応じて転倒防止等の処置をしてください。
11. 無断で改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
12. 発熱、故障の原因になります。通風口は塞がないでください。  
また、安全のために十分な保守点検スペースを確保してください。
13. 通線穴加工等の施工作業時に、内部機器に切粉・水・埃・ゴミ等がかかると、感電、故障の原因になります。養生等の処置をしてください。
14. 屋外壁で水の浸入の恐れのある貫通部には、漏電や故障の防止のため防水処理を行ってください。
15. 弱電回路は、機器が故障する恐れがあります。絶縁抵抗測定をしてはいけません。
16. 感電、短絡事故の恐れがあります。施工時に取り外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は、必ず元の位置に戻してください。
17. 不具合が発生した場合は、速やかに当社に連絡してください。
18. 完成図書、施工説明書、取扱説明書等は、所定欄に請負(施工)業者名を記入の上、一緒に施工主様にお渡しください。

表 1 適正締付トルク表

端子台・MCCB(ELCB)・電磁開閉器(接触器)・銅帯接続ボルト等

ねじの 呼び	締付トルク N・m(kgf・cm)					1N・m=10.197kgf・cm	
	端子台 *1		MCCB表面接続	MCCB裏面接続 *1		電磁開閉器 (接触器)*1	銅帯接続・ 一般締付 *2
	BN	TC	*1	丸スタッド	バースタッド		
M3.5	1.15±0.15 (11.8±1.5)	—	—	—	—	ナベ小ネジ 1.23±0.28 (12.6±2.8)	0.8±0.1 (8.2±1)
M4	1.7±0.3 (17.4±3)	—	—	—	—	ナベ小ネジ 1.52±0.34 (15.5±3.4)	1.15±0.15 (11.8±1.5)
M5	3.15±0.55 (32.2±5.6)	—	ナベ小ネジ 2.5±0.5 (25.5±5)	—	—	ナベ小ネジ 2.7±0.63 (27.6±6.4)	2.25±0.25 (23±2.5)
M6	4.65±0.75 (47.5±7.6)	—	ナベ小ネジ 3.25±0.75 (33.2±7.6)	2±0.4 (20.4±4)	—	ナベ小ネジ 4.66±1.12 (47.6±11.4)	4.45±0.45 (45.4±4.5)
M8	11.75±1.75 (119.9±17.8)	—	ナベ小ネジ 6±1 (61.2±10.1)	—	12±2.4 (122.4±24.4)	六角ボルト 8.29±2 (84.6±20.3)	9.85±0.95 (100.5±9.6)
M8	—	—	六角穴付ボルト 10.5±2.5 (107.1±25.4)	—	12±2.4 (122.4±24.4)	—	—
M10	24.5±3.5 (249.9±35.6)	—	—	—	—	六角ボルト 15.45±3.65 (157.6±37.2)	20.5±2.5 (209.1±25.4)
M12	43.5±5.5 (443.6±56)	30±5 (306±50.9)	六角ボルト 45±5 (458.9±50.9)	—	45±9 (458.9±91.7)	六角ボルト 25.45±5.85 (259.6±59.6)	35.5±4 (362.1±40.7)
M16	99.5±16.5 (1014.7±168.2)	80±10 (815.8±101.9)	—	—	—	六角ボルト 80.4±17.6 (819.9±179.4)	88.25±9.75 (900±99.4)
M20	—	—	—	—	—	—	176.5±19.5 (1799.9±198.8)
M24	—	—	—	—	—	—	308.75±34.25 (3148.4±349.2)

\* 1: 機器メーカーのカタログ値です。

\* 2: JISC2805「銅線用圧着端子」記載の締付トルク値です。

